

足利風 -ashikaga-fu

2020
10月号
Vol. 70



絵手紙：齋藤 博

足利市民活動センター

開館時間：平日 午前10時～午後7時
土・日・祝日・第3月曜日休日

〒326-0052

栃木県足利市相生町1-1
足利市生涯学習センター3F

TEL 0284 (44) 7311

FAX 0284 (44) 7312

Mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

- *特集！
- *TOPICS
- *私のボランティアことはじめ
- *サークル紹介
- *インフォメーション
- *センターからのご案内

* “利他心”という“背守り” *

「“利他主義”と市民の“エンパワーメント”が、コロナ後の時代のキーワードになる」と、ある世界的な歴史学者が話していた。パンデミック（疫病の世界的流行）は過去にも数回人類は経験しているが、今回の新型コロナ・ウィルス（COVID-19）は、確実にこれまでのグローバリズムや世界の在り方を変えずにはおかないだろう。

2019年の世界の若者意識調査において「自分で国や社会を変えられる」という回答が、日本では18.3%だった。アジアのインド80%・韓国40%、欧米では70%を超えた。「将来の夢を持っている」は、他国が軒並み90%以上なのに、日本は最低の60%。「自分の国の将来は良くなる」も最低の10%・・・他にも多々あるが、諸外国



との比較で際立つ、この自己肯定感の低さと無力感の蔓延は、まぎれもなく現代日本における若者たちの生きずらさを現わしている。それを生み出したのは、まぎれもなく前を生きる世代である。“1968”年を生きた世代は、フランスの作家・ポール・ニザン「アデン・アラビア」中の言葉“二十歳・・・それが人の一生の中で最も美しい季節だなどとは言わせない”に、最も反抗した世代であった、はずであるが。

日本では昔から新しく生まれた子どもを災厄や疫病から守るために、産着の背中に「背守り（せもり）」という小さな刺繍を縫い付ける風習があった。“黒の衝撃”としてパリコレを席卷しているデザイナー・山本耀司が近作に“背守り”を取り入れている。ことほどさように、コロナ後を生きる若者たちの背中にも、“利他心”という“背守り”を縫いつけてあげる心配りが必要だ・・・と思うのは私だけだろうか。

(M生)

* 大川繁子さん健在なり！ *

6月19日（金）午後の足利市民活動センターみんなの広場は、話題のベストセラー「92歳の現役保育士が伝えたい親子で幸せになる子育て」の主演・大川繁子さんをお迎えしての画期的な“まちの縁側”となった。築170年の古民家の園舎でモンテッソーリ教育とアドラー心理学のいいとこどりを実践している小俣幼児生活団。大川繁子さんの口癖は「子どもはもっと自由に生きられる！」だ。「60年かけて2800人以上の園児たちから教わった！」とも語る。以前から変わらない穏やかな笑顔を浮かべて・・・これからもお元気で！と願わずにいられない。ス・テ・キな午後の幸せなひとときでした。

* あどもい? *

あどもい 小林一行



みなさん、「あどもい」というグループをご存じでしょうか？
そしてその意味は・・・？

私たちは2013年、「足利の持っている歴史・文化を活用して地域を元気にしよう」を目標に発足しました。もとより私どもだけでは何もできませんので、目標を同じくする人や団体の橋渡しができれば、と考えました。

そして名前はどのような？ 会員の一人が万葉集を見つけました。第1718番高市が読んだ「足利思代 傍行舟薄 高嶋之 足速之水門 極尔監鴨」という歌で、ここで「足利思」を「あどもい」と読ませ、意味は漕ぎ行く舟にかかって「声をかけ合って」「みんなで一緒に」でした。まさにわれわれにピッタリ、と、これをグループ名としました。

つぎに私どもの活動内容の一部を紹介させていただきます。

まず第一は「こどもガイド」です。これは毎年秋に開かれている「文化財一斉公開」時に小学校五・六年生のこどもにガイドをしてもらう、という試みです。足利の持っている歴史・文化の貴重さをこどもの内から理解してもらいたい、という気持ちからです。2014年、織姫神社一ヶ所で開始し、去年は六ヶ所で行うことができました。最初は及び腰だったこどもが途中から積極的に変化する成長を目の当たりにすることができます。

次は「歴マニ会」歴史をマニアックに語る会です。市内の登録文化財をお借りし、そこに因んだ講演会を行います。そして特注の和菓子を食べながら参加者と講師が交流するのが特徴です。

次は展示会です。メンバーにフォトグラファーがおり、市内の文化財写真を含めた展示会を随時行っています。

またフェイスブック「足利の歴史を百倍楽しむ方法」でも情報を提供しています。

是非ご覧いただきたいと思います。そして共感していただき、「一緒にやろう！」とのお声がけをお待ちしています。

* 一緒に楽しみませんか? *

足利絵手紙の会会員募集

絵手紙が初めて、筆を持ったことが無いという方でも大丈夫です。ヘタがいい、ヘタでいいと云うのが基本的な考えです。ご希望の方はいつでも見学にお越しください。皆様のご参加をお待ちしております。

活動日時：月2回（第1月曜日・第3金曜日）午後1時～3時

場所：足利市研修センター 会費：年3,000円

連絡先 齊藤 0284-42-0887 西村 0284-21-1630 金井 0284-41-4330

① インフォメーション ①

☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。
どうぞ、お気軽にご参加ください。

★10月10日(土) PM1:00～3:00

* 本 : 「生きる技法」(安富 歩)

* 案内人: 鈴木光尚 さん

*ひとこと: 「助けてください」と言えるとき、人は自立している! という強烈なキャッチコピーの本です。でも、よく読んでみるといちいちもったもな新鮮な感動を与えてくれる本です。自立とは多くの人に依存すること。自由とは? 幸福とは? 自分自身の内億の感覚に従い、様々な呪縛から脱出した命がけの体験論に満ち満ちています。ぜひ一緒に!

★11月20日(金) PM2:00～4:00

* 本 : 「路傍の石」(山本有三)

* 案内人: 白田 明 さん

*ひとこと: 「たった一度しかない人生を本当に生かさなかったら、人間、生まれてきた甲斐がないじゃないか」との名言で知られる、栃木生まれの作家・山本有三の不朽の名作です。厳しい環境におかれながらも純真さを失わずに自立した人間になろうと努力する一少年のひたむきな姿。どなたも一度は読まれたことのある本だと思いますが、環境が目まぐるしく変化する現代においても読み直す価値がある一冊だと思います。

■会場: 足利市民活動センター

■参加費: 無料

■お問い合わせ・事務局: 足利市民活動センター ☎44-7311

* センターからのご案内 *

☆交流コーナー ～ 10月・11月のご案内 ～

- * 10月 5日(月)～10月15日(木) 川島直人水彩画作品展
- * 10月20日(火)～10月29日(木) 足利絵手紙の会 作品展
- * 11月 2日(月)～11月12日(木) 第7回色鉛筆好彩会作品展
- * 11月17日(火)～11月26日(木) 田中正造と足利展 (足利との縁を訪ねて)

☆相談室&講座のご案内

- * 相談室 = 毎月第2・第4水曜 午後2時～4時 ※詳しくは、別紙参照
- * 講座 = 毎月1回 午後7時～9時 ※詳しくは、別紙参照

編集後記

足利市民活動センターが移転してほぼ半年が過ぎ、新居にも大分馴染んできましたが、「カーナビが違う場所を表示する」「センターにたどり着けない」等々、利用者さんには大変ご迷惑をおかけしております。皆さまに使いやすい足利市民活動センターを目指し努力して参りますので、今後ともよろしくお願ひします。

(しおぱん)